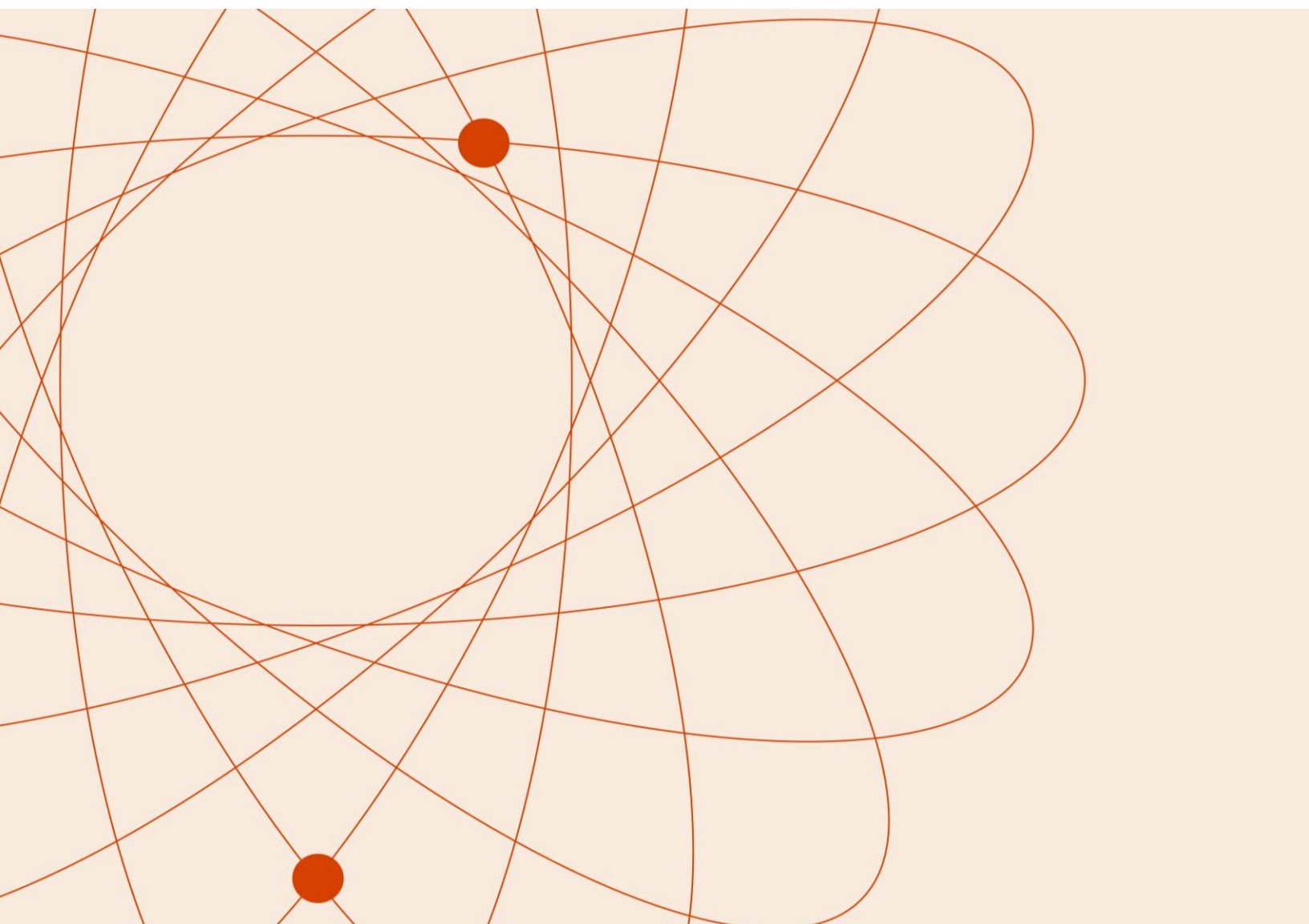


ONESOURCE Report Builder

ユーザーガイド

Version 26.3



Contents

Report Builder画面について	4
用語と定義の用語集	4
レポート作成: レポート要素の追加	5
項目	5
項目の追加 (方法 1)	5
項目の追加 (方法 2)	6
項目の追加 (方法 3)	6
項目の編集	7
項目の削除	8
関数	8
関数の追加 (方法 1)	8
関数の追加 (方法 2)	9
関数の追加 (方法 3)	10
関数の編集	12
関数の削除	12
複数の値に基づく関数の追加	12
条件文	13
条件文の追加 (方法 1)	13
条件文の追加 (方法 2)	14
条件文の追加 (方法 3)	14
条件文の追加 (方法 4)	15
条件文の作成	16
条件文の編集	18
条件文の削除	19
保存条件文の作成	19
選択した項目の並べ替え	20
制限	20
個々の制限の追加 (方法 1)	21
個々の制限の追加 (方法 2)	21
個々の制限の追加 (方法 3)	22
個々の制限の作成	23
制限の編集	25
個々の制限の削除	25
制限グループの追加 (最上位 - 親)	26
制限グループの追加 (子を親に)	26
制限グループの編集	27
制限グループの削除	28

レポート順序要素の並べ替え.....	28
順序要素の追加（方法 1）.....	28
順序要素の追加（方法 2）.....	29
順序要素の追加（方法 3）.....	30
順序要素の追加（方法 4）.....	31
順序要素の追加（方法 5）.....	32
順序要素の編集.....	33
順序要素の削除.....	33
レポートのプレビューと抽出	33
レポートのプレビュー.....	33
グリッププレビュー.....	34
チャートプレビュー.....	34
レポートの抽出.....	35
レポートの保存と読み込み	35
レポートの保存.....	36
データを含める.....	38
付録 A: 関数表.....	39
標準セマンティックレイヤー	40

Report Builder画面について

ONESOURCE: Global Trade Report Builder ソリューションを使用すると以下の操作が可能です。

1. 他の検索画面より高度な手法を使用したデータのクエリ
2. クエリの結果のエクスポートと共有
3. 検索条件と生成されたすべてのレポートの保存

Report Builderで作成したレポートは、将来の利用に備えて内部的に保存することも、可視化や定期レポートのために外部的に保存することもできます。保存したレポートは、ONESOURCE: Global Trade ソフトウェア内のルックアップの画面にリンクできます。[Report Builder] 画面にアクセスするには、各モジュールで使用可能なメニューから [Report Builder] を選択します。

Report Builder

Select Layer: Export Management

[New Report](#)
[Load Existing Report](#)
[Save Report](#)
[Admin Query View](#)
[Data Inclusion](#)
[Select Target Partner](#)
[Exit](#)

FIELDS	SELECTED ITEMS	+
FUNCTIONS	RESTRICTIONS	+
CONDITIONALS	ORDERING	+
PREVIEW		
 		

用語と定義の用語集

以下の用語と定義は、このユーザーガイド全体で使用されます。各用語は、対応するセクションでさらに詳しく説明します。

学期	意味
フィールド	項目の値は、あらゆるクエリの基本的な構成要素です。
関数	関数は、基本的な数値演算、グルーピング、値の一部のみ表示を実行します。
条件文	条件（CASE）文は、一連の「IF...THEN」文を使用して、他の関連する列値（複数可）に応じて、1つの列で異なる値を返します。
制限	制限は、レポート結果に含まれるデータを決定する条件です。
制限グループ	制限グループは、制限のグループをまとめてつなぎ、より複雑な条件を構築します。グループは、子グループとして他のグループを含むこともできます。各グループは、「AND」演算子か「OR」演算子を介してその子制限を結び付けます。 AND: データが含まれるには、そのラインが、子制限に置かれたすべての条件を満たす必要があります。最上位の制限は常に、「AND」演算子でつながれます。

学期	意味
	OR: データが含まれるには、そのラインが、子制限に置かれた条件（複数可）を満たす必要があります。
順序要素	順序付けは、レポートデータ要素を表示する順序を決定する並べ替え機能です。
ピボット	ピボットは、列から一意の値を取得し、それらを複数の列に変える方法であり、他の列値を集計します。 たとえば、月、国、値を含む 3 列のテーブルを返す代わりに、ピボットは、月列、国ごとの新しい列、これらの国列にわたって分割された値を含むテーブルを返すことができます。

レポート作成: レポート要素の追加

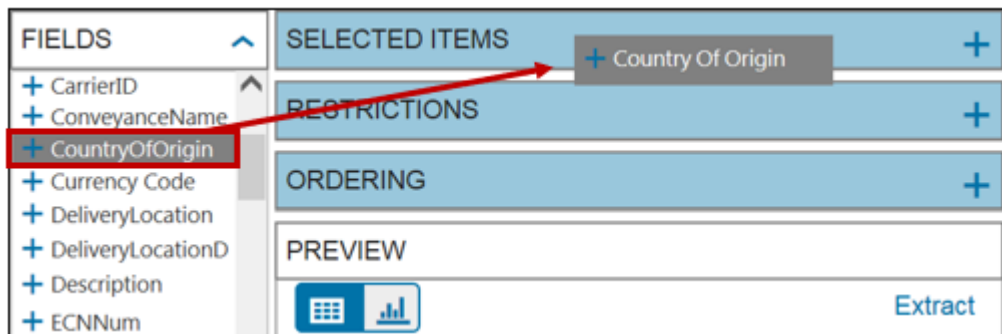
項目

項目の値は、あらゆるクエリの基本的な構成要素です。各項目は、選択したテーブル内の列ヘッダーの名前に対応します。項目を追加するには、以下に示す 3 つの方法のいずれかを実行します。

項目の追加（方法 1）

[項目] ボックスからレポートに含める項目を選択します。

項目を選択したら、その項目をクリックして [項目] ボックスから [選択した項目] ボックスにドラッグします。

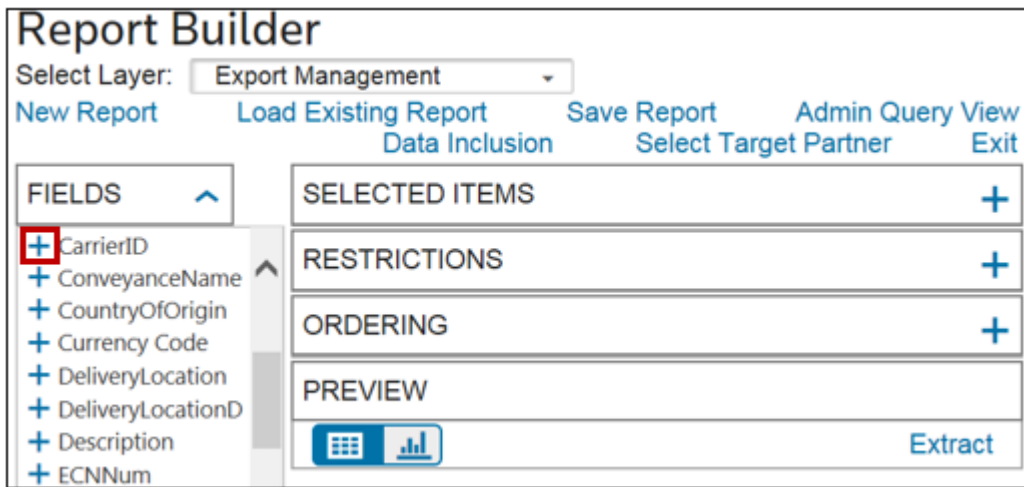


これでその項目は、画面の [選択した項目] セクションに表示されます。



項目の追加（方法 2）

[項目] ボックスから含める項目を選択します。項目を選択したら、[+] ボタンをクリックします。

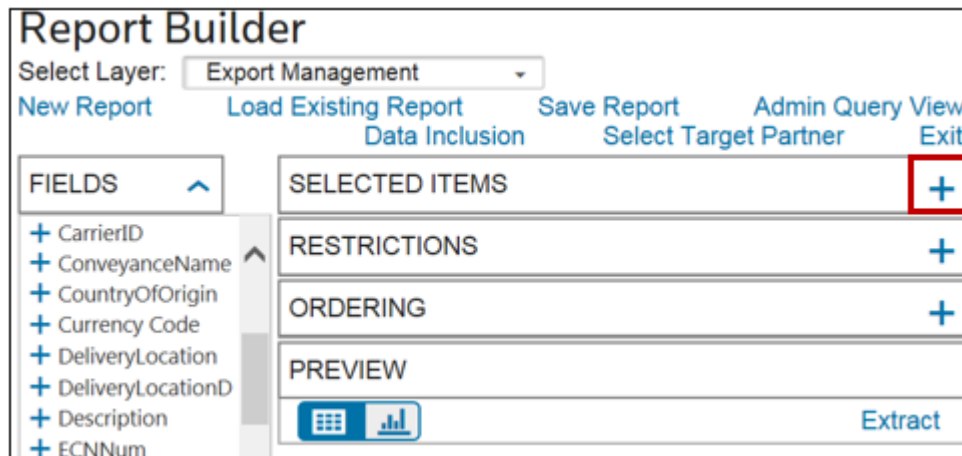


これでその項目は、画面の [選択した項目] セクションに表示されます。

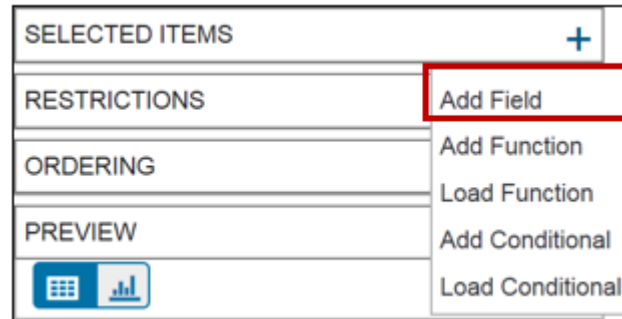


項目の追加（方法 3）

[選択した項目] ボックスに移動し、右端にある [+] をクリックします。



ドロップダウンが右側に表示されます。ドロップダウンから [項目を追加] をクリックします。



[項目を追加] をクリックすると、[項目を追加] ポップアップが開きます。[結果列名] を入力し、[項目を追加...] テキストボックスから項目を選択します。これらのパラメータを設定したら、[保存] をクリックします。

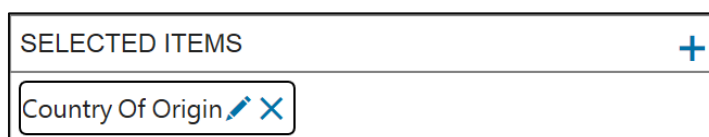
項目の編集

項目を編集するには、[選択した項目] ボックスから編集する項目を選択します。項目を選択したら、項目の対応する鉛筆アイコンをクリックします。



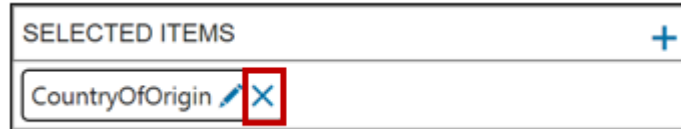
[編集] ポップアップが開きます。項目の [結果列名] に必要な変更を加えてから [保存] をクリックします。

項目名が [選択した項目] セクションで更新します。

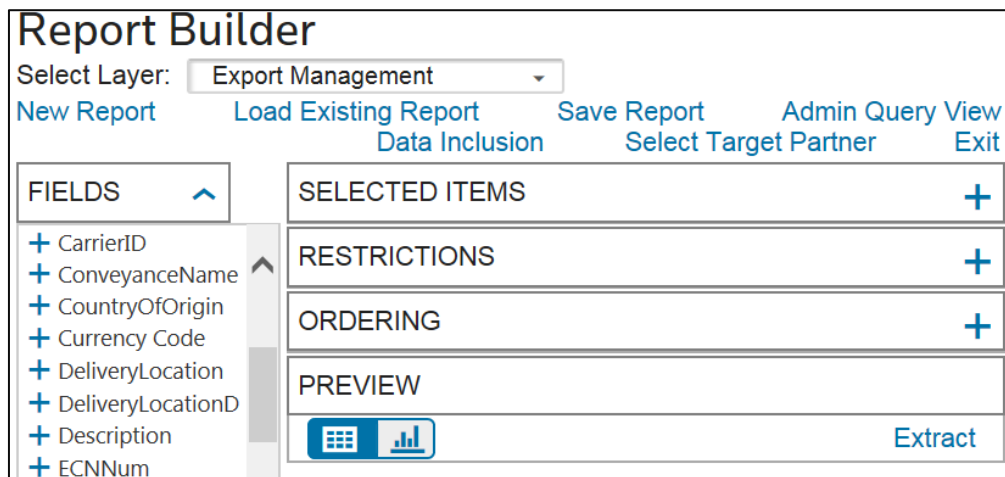


項目の削除

項目を削除するには、[選択した項目] ボックスから削除する項目を選択します。項目を選択したら、項目の [X] アイコンをクリックします。



項目は、レポートから削除されます。

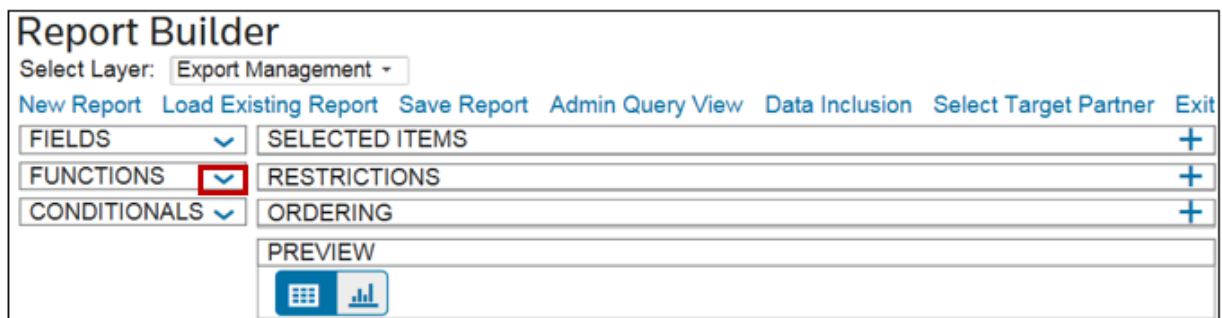


関数

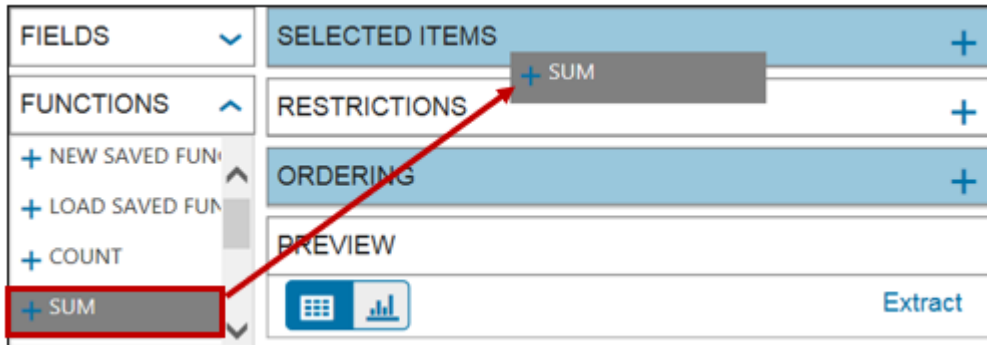
関数は、基本的な数値演算、グルーピング、一部の値だけの表示の実行に使用されます。関数を追加するには、以下に示す 3 つの方法のいずれかを実行します。

関数の追加（方法 1）

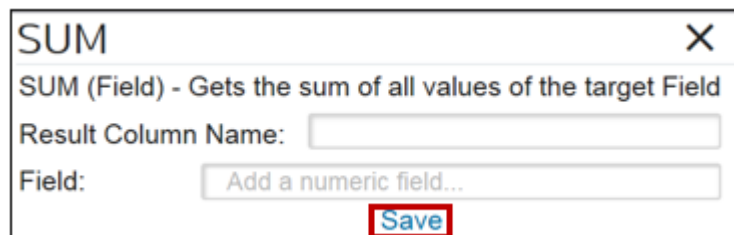
[項目] ボックスを下にスクロールして、[関数] ボックスを見つけます。[関数] ボックスの右端にある展開矢印をクリックします。



[関数] ボックスから含める関数を選択します。関数を選択したら、関数名をクリックします。選択した関数を [選択した項目] ボックスにドラッグして離します。

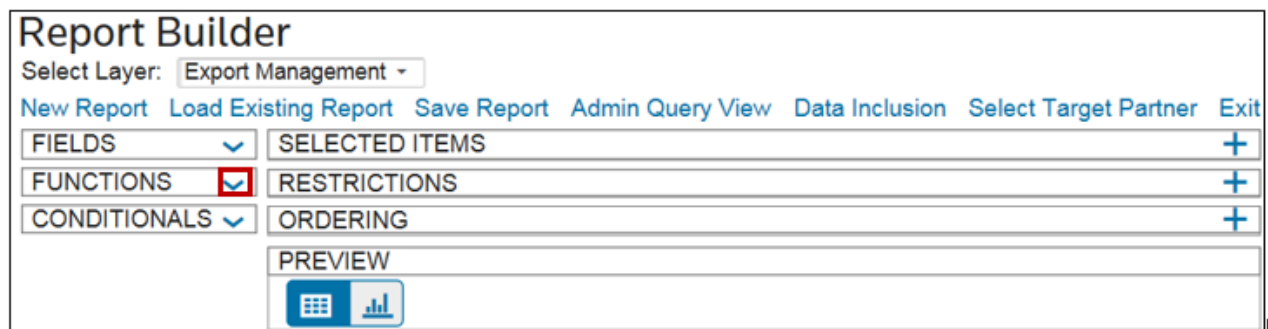


関数が行う処理について説明したポップアップが表示されます。結果列名を入力し、[数値項目を追加...] テキストボックスから項目を選択します。このボックスには先行入力機能があり、項目名が自動入力されます。これらの両方のパラメータを設定したら、[保存] をクリックして続行します。

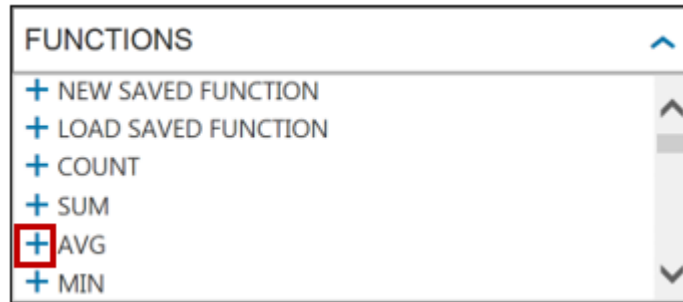


関数の追加（方法 2）

[項目] ボックスを下にスクロールして、[関数] ボックスを見つけます。[関数] ボックスの右端にある展開矢印をクリックします。



[関数] ボックスから含める関数を選択します。関数を選択したら、[+] ボタンをクリックします。

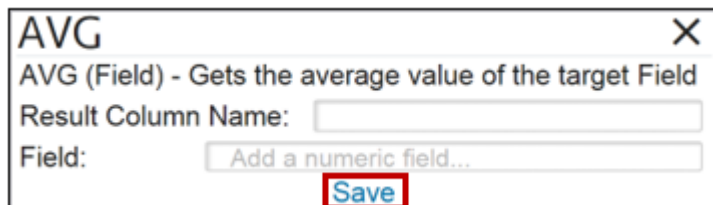


関数が行う処理について説明したポップアップが表示されます。

結果列名を入力し、[数値項目を追加...] テキストボックスから項目を選択します。このボックスには先行入力機能があり、項目名が自動入力されます。

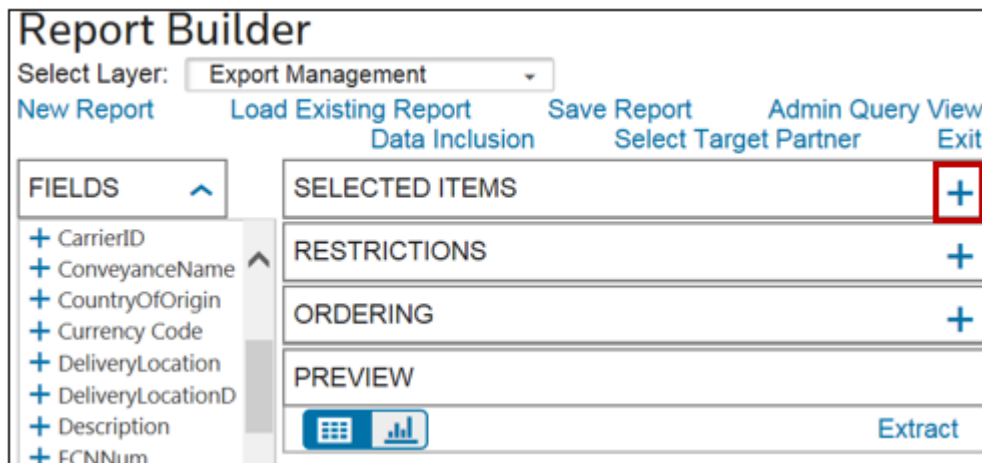
一部（すべてではない）の関数では、数値項目だけを選択できます。

これらの両方のパラメータを設定したら、[保存] をクリックして続行します。

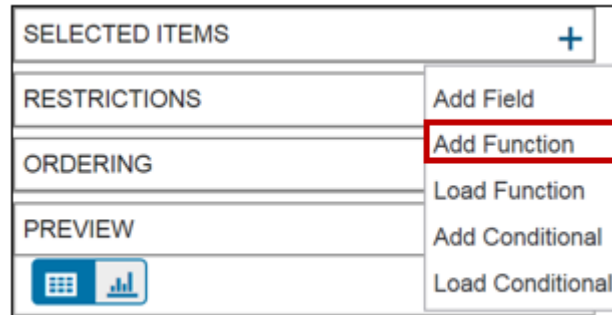


関数の追加（方法 3）

[選択した項目] ボックスの右端にある [+] ボタンをクリックします。



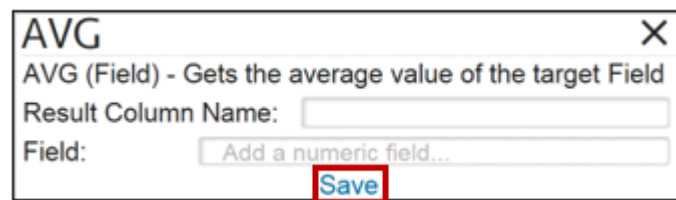
ドロップダウンが右側に表示されます。ドロップダウンから [関数を追加] をクリックします。



[関数の選択] をクリックすると、[関数を追加] ポップアップが開きます。そのリストから関数を選択して [選択] をクリックします。

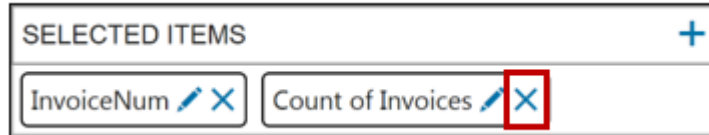


関数が行う処理について説明したポップアップが表示されます。結果列名を入力し、[数値項目を追加...] テキストボックスから項目を選択します。このボックスには先行入力機能があり、項目名が自動入力されます。これらの両方のパラメータを設定したら、[保存] をクリックして続行します。



関数の編集

関数を編集するには、[選択した項目] ボックスに移動し、編集する関数を選択します。関数を選択すると、[選択した項目] 表示ボックスで、関数に対応する鉛筆アイコンをクリックします。



[関数の編集] ポップアップが開きます。必要な変更を行い、保存します。

COUNT
✕

COUNT (Field) - Gets the number of times the target Field occurs

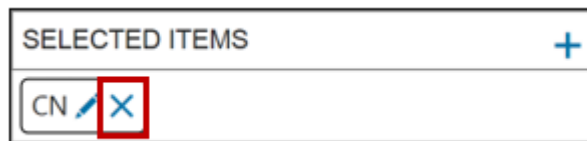
Result Column Name:

Field:

Save

関数の削除

関数を削除するには、[選択した項目] ボックスに移動し、削除する関数を選択します。関数を選択したら、関数の [X] アイコンをクリックします。



関数は、レポートから削除されます。

複数の値に基づく関数の追加

「ADD」関数は、2つの異なる数値項目からの値を含んだ列を作成するために使用できます。たとえば、「AddlDuty」と「AdValoremDuty」の値を結合して、「TotalLineDuty」という新しい総計レポート列を作成できます。

「ADD」は、[関数] テーブルの下部に置かれており、2つの数値項目を選択して結果列に名前を付けるようにユーザーに要求します。これらの値を入力したら、[保存] をクリックして続行します。

FUNCTIONS

- + RIGHT
- + LEFT
- + PERCENT
- + CONCATENATE
- + ADD**
- + PIVOT

ADD

Field1 + Field2 - To perform addition of two numeric fields

Result Column Name:

Field 1:

Field 2:

[Save](#)

条件文

条件文（SQL では「CASE」文と呼ばれることがあります）は、一連の「IF...THEN」文を使用して、他の関連する列値（複数可）に応じて、1つの列で異なる値を返します。条件文を追加するには、以下の方法のいずれかを実行します。

条件文の追加（方法 1）

[Report Builder] 画面で、[条件] ボックスを探します。[条件] ボックスの右側にある展開矢印をクリックします。

Report Builder

Select Layer:

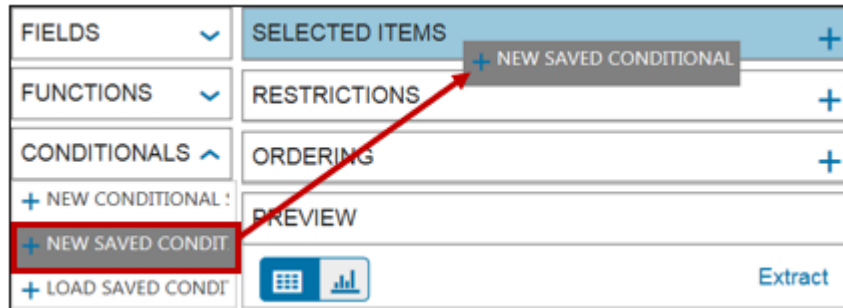
[New Report](#) [Load Existing Report](#) [Save Report](#) [Admin Query View](#) [Data Inclusion](#) [Select Target Partner](#) [Exit](#)

FIELDS	SELECTED ITEMS	+
FUNCTIONS	RESTRICTIONS	+
CONDITIONALS	ORDERING	+

PREVIEW

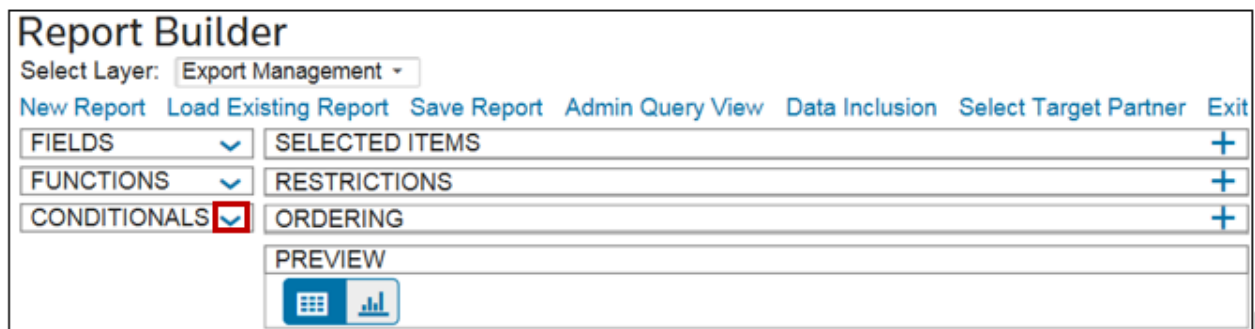
すべての使用可能な条件文が、[条件] ボックスに表示されます。レポートに追加する条件を選択します。条件をクリックし、[選択した項目] ボックスにドラッグして離します。



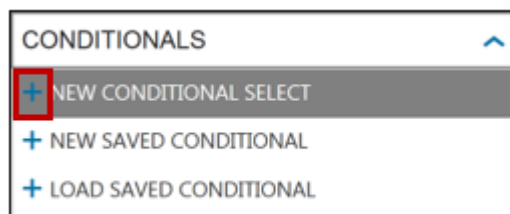
条件選択ポップアップが開きます。プロセスの次の手順については、このユーザーガイドの「条件文の作成」のセクションを参照してください。

条件文の追加（方法 2）

[Report Builder] 画面で、[条件] ボックスを探します。[条件] ボックスの右側にある展開矢印をクリックします。



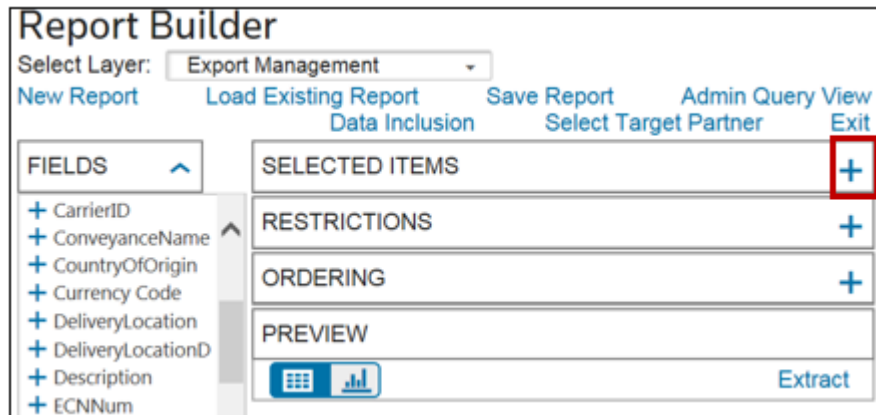
すべての使用可能な条件文が、[条件] ボックスに表示されます。レポートに追加する条件を選択し、それに対応する [+] をクリックします。



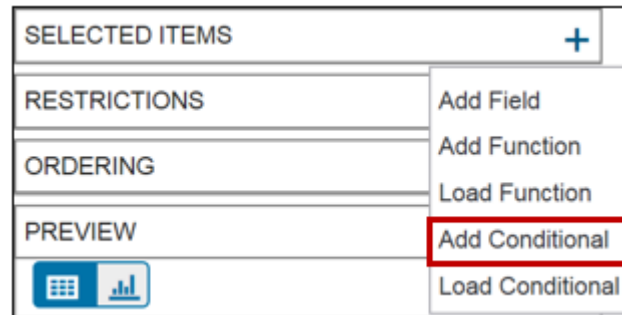
条件選択ポップアップが開きます。プロセスの次の手順については、このユーザーガイドの「条件文の作成」のセクションを参照してください。

条件文の追加（方法 3）

[Report Builder] 画面で、[選択した項目] ボックスを探します。[選択した項目] ボックスで、右端にある [+] をクリックします。



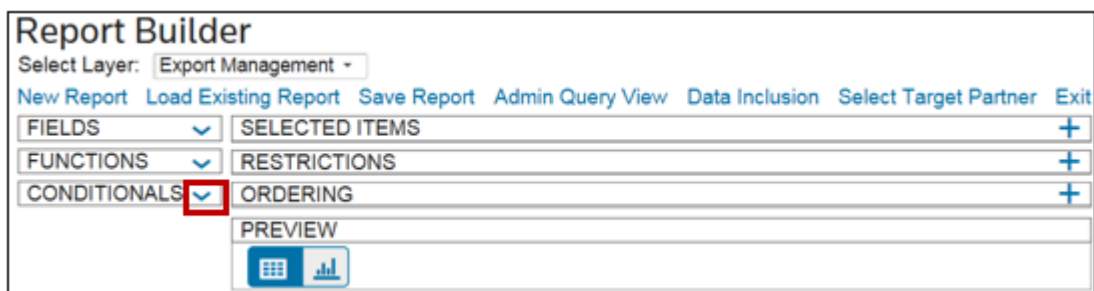
[+] をクリックするとドロップダウンが開きます。ドロップダウンから [条件を追加] をクリックします。



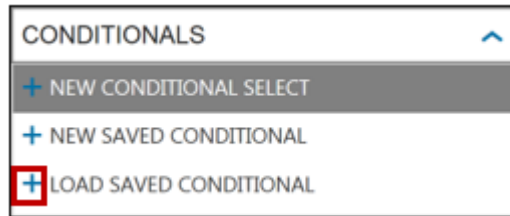
条件選択ポップアップが開きます。プロセスの次の手順については、このユーザーガイドの「条件文の作成」のセクションを参照してください。

条件文の追加（方法 4）

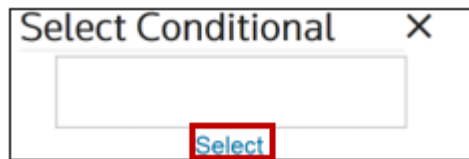
[Report Builder] 画面で、[条件] ボックスを探します。[条件] ボックスの右側にある展開矢印をクリックします。



[保存した条件文を読み込む] をクリックし、左側の [+] をクリックします。



条件文があらかじめ保存されている場合は、[条件の選択] ポップアップで使用できます。条件文を選択して [選択] をクリックします。



条件文の作成

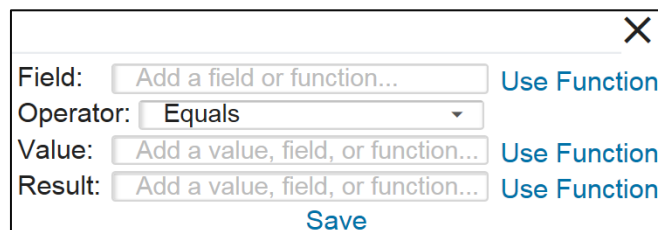
保存されている条件文の読み込み（方法 4）以外の方法で条件文が追加されている場合、空の [条件文] ポップアップが開きます。

制限と同様に、条件には項目、演算子、値が必要です。制限とは異なり、条件には結果も必要になります。条件による動作は、演算子で値が項目に適用され、その適用後の値が真であるときに、結果が条件文の出力になるというものです。

条件を追加するには、[条件を追加] をクリックします。



[条件を追加] をクリックすると、別のポップアップが開き、ユーザーはここで条件文を作成できます。



[項目]、[値]、[結果] の項目にはすべて先行入力機能があります。入力する値や項目の一部を入力します。一致した候補のドロップダウンが表示されます。正しい一致を選択します。

The screenshot shows a configuration dialog with fields for Field, Operator, Value, and Result. The Operator dropdown menu is open, displaying a list of operators: Equals, Not Equals, Contains, Starts With, Ends With, and Greater Than. The 'Equals' option is highlighted with a red box. Buttons for 'Use Function' and 'Save' are visible on the right side.

関数を選択するには、[関数を使用] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the same configuration dialog. The 'Use Function' button next to the Result field is highlighted with a red box. The other fields (Field, Operator, Value) also have 'Use Function' buttons.

[関数を使用] をクリックすると、[関数の選択] ポップアップが開き、使用可能な関数のリストが表示されます。その提供されたリストから関数を選択して [選択] をクリックします。

The screenshot shows a 'Select Function' popup window. It contains a list of functions: COUNT, SUM, AVG, MIN, MAX, and DAY. The 'Select' button at the bottom is highlighted with a red box.

各関数には独自のポップアップがあり、ここには、関数をレポートに適用するために入力する必要がある独自の項目が含まれています。すべての項目に情報を入力し、[保存] をクリックします。



DATEADD [X]

DATEADD (Part, Increment, Date) -
Adds a specified Part a number of times Increment to the target Date

Result Column Name:

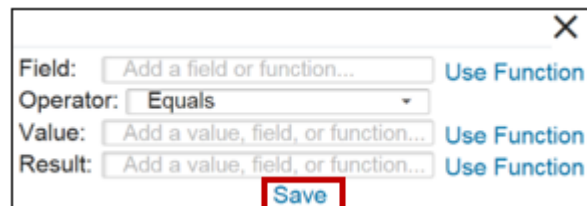
Part:

Increment:

Date:

Save

すべての項目に入力したら [保存] をクリックします。



[X]

Field: **Use Function**

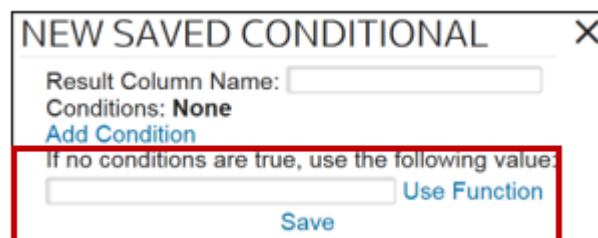
Operator:

Value: **Use Function**

Result: **Use Function**

Save

リストのどの条件も満たされない場合、条件文は最終出力を必要とします。この最終出力を下部の項目に追加し、[保存] をクリックします。



NEW SAVED CONDITIONAL [X]

Result Column Name:

Conditions: **None**

Add Condition

If no conditions are true, use the following value:

Use Function

Save

条件文の編集

条件文を編集するには、[選択した項目] ボックスに移動し、編集する条件文を選択します。文を選択したら、条件文の対応する鉛筆アイコンをクリックします。



SELECTED ITEMS +

Country of Origin  

[編集] ポップアップが開きます。必要な変更を行い、保存します。追加の条件もこの手順で追加できます。

NEW SAVED CONDITIONAL

Result Column Name: Invoice Status

Conditions:

IF InvoiceDate > 10/10/2019 THEN Future

Add Condition

If no conditions are true, use the following value:

Save

Use Function

Edit

条件文の削除

条件文を削除するには、[選択した項目] ボックスに移動し、削除する条件文を選択します。文を選択したら、条件文の対応する [X] をクリックします。

SELECTED ITEMS

Country of Origin

X

文は、レポートから削除されます。

保存条件文の作成

将来利用できるように条件文を保存するには、以下の操作を実行します。

[Report Builder] 画面で、[条件] ボックスを探します。[条件] ボックスの右側にある展開矢印をクリックします。

Report Builder

Select Layer: Export Management

New Report Load Existing Report Save Report Admin Query View Data Inclusion Select Target Partner Exit

FIELDS

FUNCTIONS

CONDITIONALS

SELECTED ITEMS

RESTRICTIONS

ORDERING

PREVIEW

使用可能な条件文オプションのリストが表示されます。[新規保存条件] を選択して、対応する [+] をクリックします。

CONDITIONALS

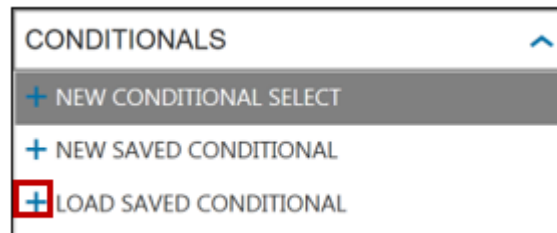
+ NEW CONDITIONAL SELECT

+ NEW SAVED CONDITIONAL

+ LOAD SAVED CONDITIONAL

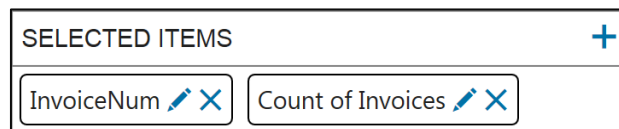
このユーザーガイドの「条件文の作成」のセクションに記されたとおりに、条件文を作成します。条件文を作成し、[保存] をクリックすると、[条件の選択] ポップアップで条件文が使用可能になります。

保存条件文ポップアップを開くには、[条件文] ボックスに戻り、[保存した条件文を読み込む] を選択します。次に、左端にある対応する **[+]** をクリックします。

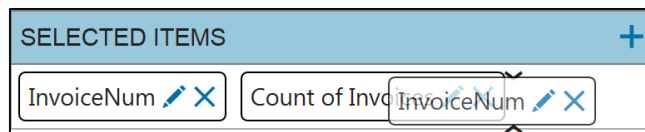


選択した項目の並べ替え

レポート結果で選択した項目を並べ替えるには、[選択した項目] ボックスに移動して、並べ替える項目を選択します。



新しい目的の場所に項目をクリックしてドラッグします。下の例では、[船荷証券] が右側に移されました。項目をドラッグすると、カラットインジケータが表示され、移動した項目がレポートのどこに表示されるかが示されます。



制限

制限は、レポート結果に含まれるデータを決定する条件です。

- 独立した制限は、単一のテーブルの単一の項目に作用します。
- 制限グループは、制限のグループをまとめてつなぎ、より複雑な条件を構築します。グループは、子グループとして他のグループを含むこともできます。

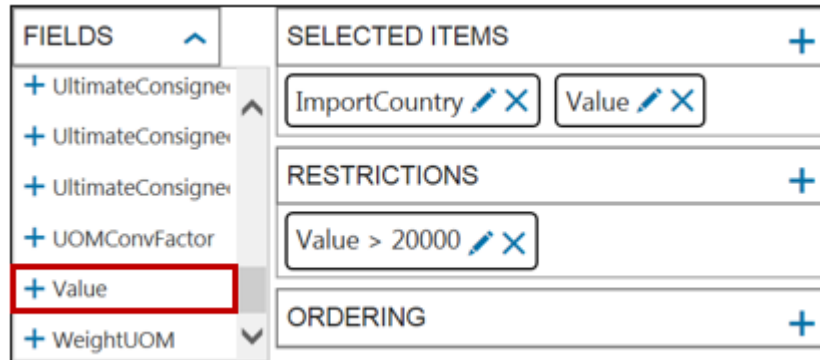
各グループは、「AND」演算子か「OR」演算子を介してその子制限およびグループを結び付けます。

AND	データが含まれるには、そのラインが、子制限の条件すべてを満たす必要があります。最上位の制限は常に、「AND」演算子でつながれます。
OR	データが含まれるには、そのラインが、子制限の条件（複数可）を満たす必要があります。

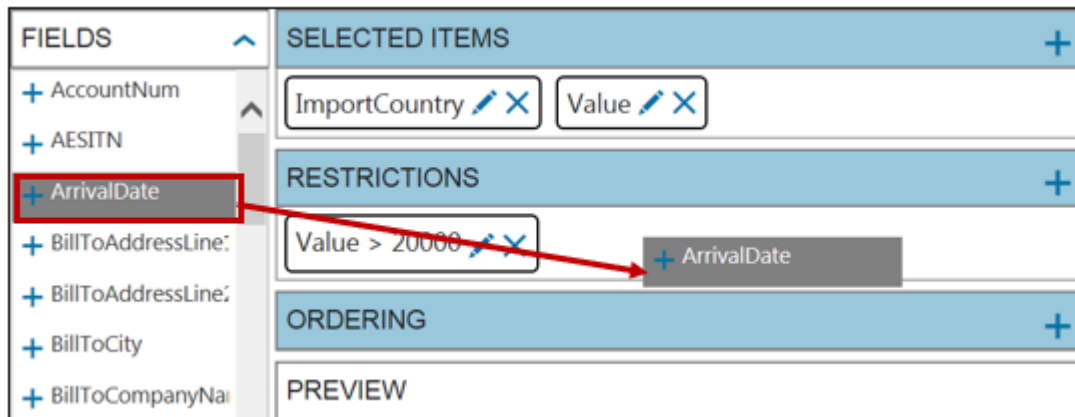
個々の制限を追加するには、以下に示すいずれかの方法に従います。

個々の制限の追加（方法 1）

[項目] ボックス内の項目を [制限] ボックスにドラッグアンドドロップすると、新しい制限が開かれ、その項目が制限項目として表示されます。



項目名をクリックして、その項目を [制限] ボックスまでドラッグします。項目を移動できるボックスは一時的に青色になり、マウスをドラッグしているところに項目名が表示されます。項目が目的の位置に到達したら、マウスのボタンを離します。



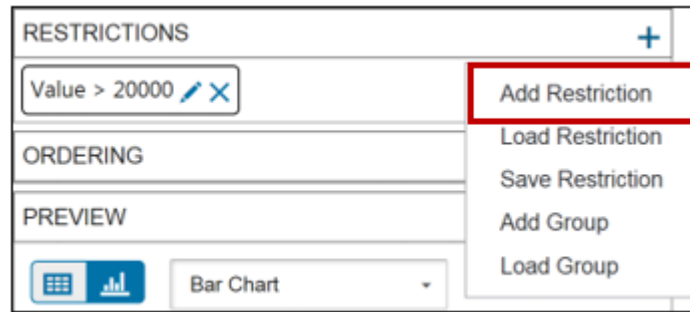
制限の作成の詳細については、このユーザーガイドの「個々の制限の作成」のセクションに進んでください。

個々の制限の追加（方法 2）

[Report Builder] 画面で、[制限] ボックスに移動し、右端にある [+] をクリックします。



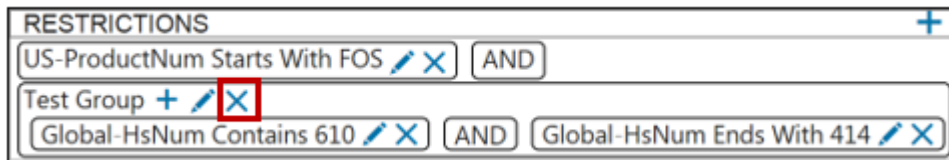
ドロップダウンが表示されます。使用可能なオプションから、[制限を追加] をクリックします。



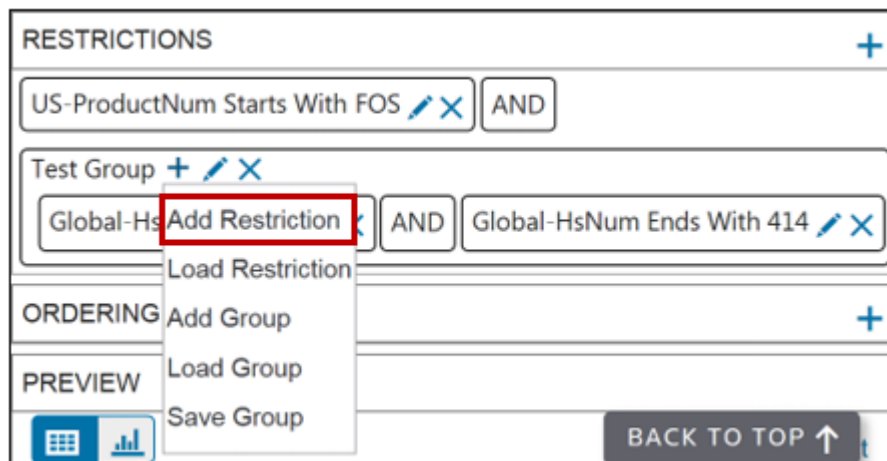
制限の作成の詳細については、このユーザーガイドの「個々の制限の作成」のセクションに進んでください。

個々の制限の追加（方法 3）

[Report Builder] 画面で、[条件] ボックスに移動します。個々のそれぞれの制限には、制限前の右側に [+] アイコンがあります。このアイコンをクリックします。



ドロップダウンが表示されます。使用可能なオプションから、[制限を追加] をクリックします。



制限の作成の詳細については、このユーザーガイドの「個々の制限の作成」のセクションに進んでください。

個々の制限の作成

制限では、項目、演算子、値の3つの項目が必要です。レポートを実行するときに、値は演算子により項目に適用されます。

結果が真である場合、ラインがレポートに表示されます。

結果が真でない場合、ラインはレポートに表示されません。

項目と値のうち一方/両方が [項目] ボックスからの項目である必要があります。2つのハードコードされた値の直接の比較はできません。

[項目] 項目には先行入力機能があります。項目名の冒頭を入力します。続いて、これらの基準に一致するすべての項目を含むドロップダウンリストが表示されます。リストから項目を選び、項目名をクリックして選択します。

演算子を選択するには、[演算子] 項目のドロップダウン矢印をクリックします。使用可能なすべての演算子が表示されます。演算子をクリックして選択します。

[値] 項目に目的の値を入力します。

Value > 20000

Field: Value

Operator: Greater Than

Value: 20000

Use Function

Use Function

Save

関数も適用できます。関数を選択するには、[関数を使用] をクリックします。

Value > 20000

Field: Value

Operator: Greater Than

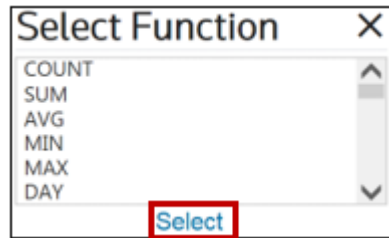
Value: 20000

Use Function

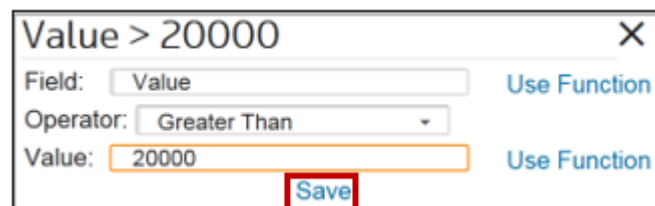
Use Function

Save

すべての使用可能な関数を含んだポップアップが表示されます。そのリストから関数を選択して [選択] をクリックします。

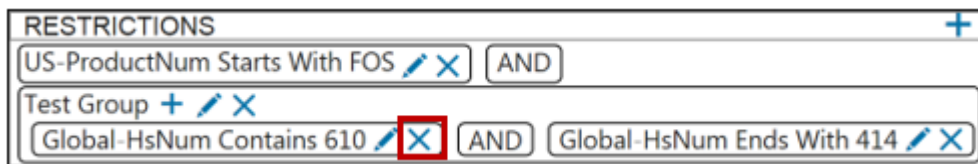


個々の制限のすべてのパラメータを作成したら、[保存] をクリックします。

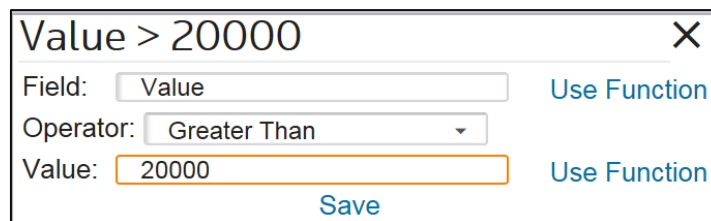


制限の編集

制限を編集するには、[制限] ボックスに移動して、編集する制限を選択します。制限の対応する鉛筆アイコンをクリックします。



選択した制限の [編集] ポップアップが開きます。必要な変更を行い、[保存] をクリックします。すべての制限と制限コンポーネントを編集できます。



個々の制限の削除

制限を削除するには、[制限] ボックスに移動して、削除する制限を選択します。制限を選択したら、制限の表示ボックスで制限の [X] アイコンをクリックします。

制限は、レポートから削除されます。

制限グループの追加（最上位 - 親）

最上位の制限グループを追加するには、[制限] ボックスに移動して、右端にある [+] をクリックします。

ドロップダウンが右側に表示されます。使用可能なオプションから、[グループを追加] をクリックします。

制限グループの追加（子を親に）

親制限グループに子制限グループを追加するには、[制限] ボックスに移動します。各制限グループには、制限名の右側に [+] アイコンがあります。このアイコンをクリックします。

ドロップダウンが表示されます。使用可能なオプションから、[グループを追加] をクリックします。

RESTRICTIONS

US-ProductNum Starts With FOS AND

Test Group + / ✕

Global-Hs Add Restriction AND Global-HsNum Ends With 414

Load Restriction

ORDERING Add Group

PREVIEW Load Group

Save Group

BACK TO TOP ↑

グループ表示名とグループ演算子を要求するポップアップが表示されます。これらのパラメータを入力し、[保存] をクリックします。

Group Display Name:

Group Operator: AND

Save

制限グループの編集

制限グループを編集するには、画面の [制限] セクションに移動して、編集する制限グループを選択します。グループを選択したら、グループの対応する鉛筆アイコンをクリックします。

RESTRICTIONS

US-ProductNum Starts With FOS AND

Test Group + / ✕

Global-HsNum Contains 610 AND Global-HsNum Ends With 414

[編集] ポップアップが開きます。必要な変更を加えた後、[保存] をクリックします。

Test Group

Group Display Name: Test Group

Group Operator: AND

Save

制限グループの削除

制限グループを削除するには、画面の [制限] セクションに移動して、削除する制限グループを選択します。グループを選択したら、グループの対応する [X] をクリックします。

グループを削除するときには注意してください。グループを削除すると、関連付けられた子グループや条件もすべて削除されます。

レポート順序要素の並べ替え

レポート要素の順序を並べ替えるには、以下に示した 5 つの方法のいずれかを使用します。

順序要素の追加（方法 1）

[Report Builder] 画面で、[項目] ボックスに移動して、項目を選択します。

Sum of transQty	Product Num
8417	
1	MOD-7582356
20	000121541-1213413
0	000121541-2224

その項目をクリックし、右側にある [順序付け] ボックスまでドラッグして離します。

The screenshot shows the 'Report Builder' interface. On the left, the 'FIELDS' list includes 'ArrivalDate', which is highlighted with a red box. A red arrow points from this box to the '+ ArrivalDate' button in the 'ORDERING' section. The 'SELECTED ITEMS' section contains 'ImportCountry' and 'Value'. The 'RESTRICTIONS' section contains 'Value > 20000'. The 'PREVIEW' section shows a 'Bar Chart' and the title 'Export- Value per Import Country'. A 'Print' button and a 'BACK TO TOP' button are also visible.

順序要素の追加（方法 2）

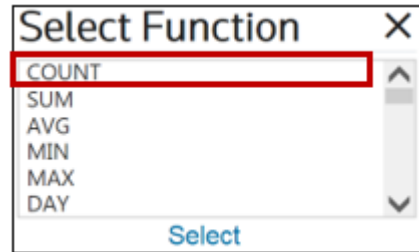
[Report Builder] 画面で [関数] ボックスに移動し、展開矢印をクリックしてすべての使用可能な関数を表示します。

The screenshot shows the 'Inventory by Product' report. The 'Select Layer' is set to 'Export Management'. The 'FUNCTIONS' box is expanded, showing a list of functions. The 'PREVIEW' section displays a table with the following data:

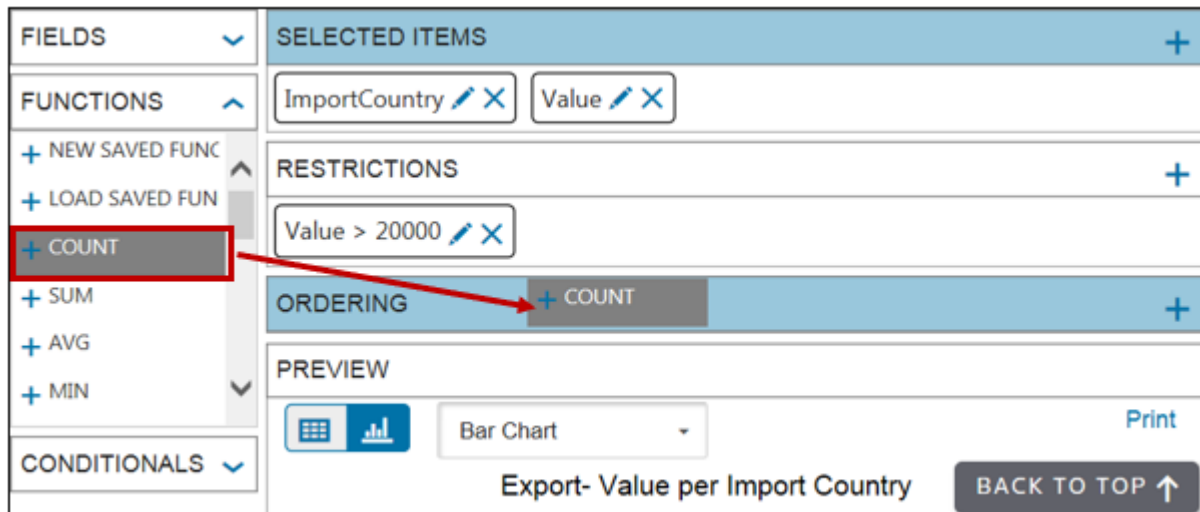
Sum of transQty	Product Num
8417	
1	MOD-7582356
20	000121541-1213413
0	000121541-2224

The table has 25 columns and 234 items in 10 pages.

[関数] ボックスを展開して、使用可能な関数のいずれかを選択します。



その関数をクリックし、右側にある [順序付け] ボックスまでドラッグして離します。

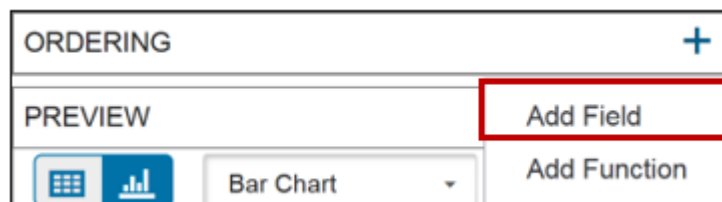


順序要素の追加（方法 3）

[順序付け] ボックスに移動し、右端にある [+] をクリックします。



ドロップダウンが表示されます。ドロップダウンメニューから [項目を追加] をクリックします。



[項目の選択] ポップアップが開くと、[項目を追加...] をクリックして、追加する項目の名前の入力を開始します。

この項目には先行入力機能があります。項目名を入力すると、これらの文字に一致する使用可能な項目のドロップダウンリストが使用可能になります。リストから項目名をクリックして選択します。

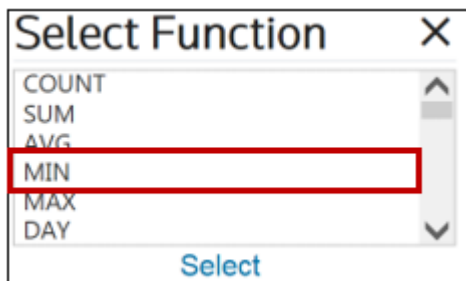
項目名を選択したら、[保存] をクリックします。

順序要素の追加（方法 4）

[順序付け] ボックスに移動し、右端にある [+] をクリックします。

ドロップダウンが画面に表示されます。ドロップダウンメニューから [関数を追加] をクリックします。

[関数の選択] ポップアップが開いたら、リストから関数を選択し [選択] をクリックします。

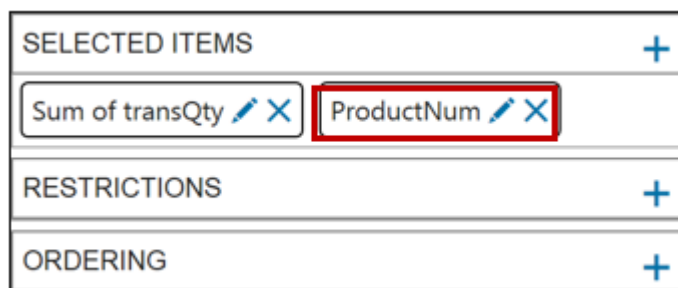


関数情報（結果列名と項目）を入力し、[保存] をクリックします。

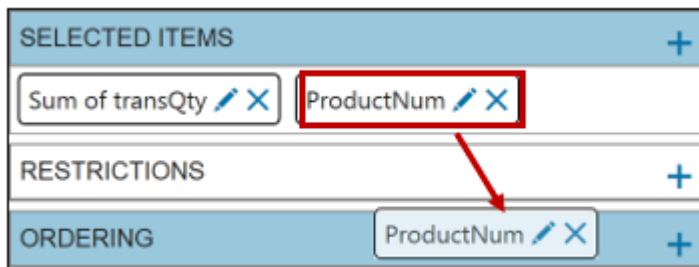


順序要素の追加（方法 5）

[選択した項目] ボックスから項目か関数を選択し、[順序付け] ボックスに移します。

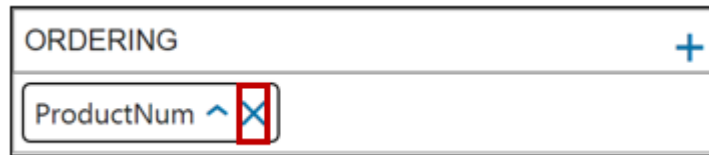


その項目か関数をクリックし、[順序付け] ボックスまでドラッグして離します。



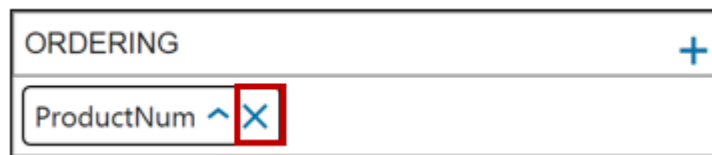
順序要素の編集

[順序基準] 要素の方向を変更するには、順序項目表示ボックスのカラットアイコンをクリックします。



順序要素の削除

順序要素を削除するには、削除する要素を選択します。要素を選択したら、順序項目表示ボックスで要素の [X] アイコンをクリックします。



要素は、レポートから削除されます。

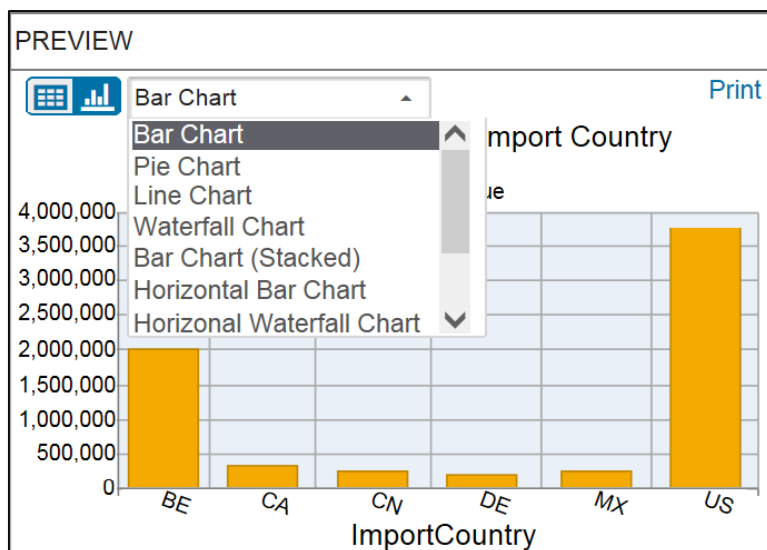
レポートのプレビューと抽出

レポートの設定中、[プレビュー] パネルはリフレッシュされ、最近更新したバージョンの進行中のレポートが表示されます。これらの更新はリアルタイムで行われます。追加、削除、順序変更などが即座にプレビューに反映されます。

レポートのプレビュー

すべてのレポートは、データのグリッドとして表示できます。一部のインスタンスでは、許容可能な一連のデータを選択した場合、以下に示した多くのタイプのいずれかのチャートとして生成することもできます。

- 棒
- 水平棒
- 線
- 円
- 滝グラフ
- 水平滝
- レーダーエリア



グリッドプレビュー

デフォルトでは、すべてのレポートがグリッドとして表示されます。プレビューにチャートが表示されている場合、グリッドアイコンをクリックすると、グリッドビューにレポートが返されます。

PREVIEW

Extract

Global-ProductNum	US-ECCN	US-HSNum	Mexico-HsNum	GB-HSNum	Brazil-HSNum
██████████	0A979	2836910010		2836910090	28369920
██████████	0A979	1005100090		1005101500	
██████████	EAR99	6105100010		6101908010	61051000
██████████	7A005.a	8205591000			82055900
██████████		6402197061		6402190000	64021900
██████████	EAR99	6402191520		6402919000	64029110
██████████	EAR99	99038801		8501200090	85012000

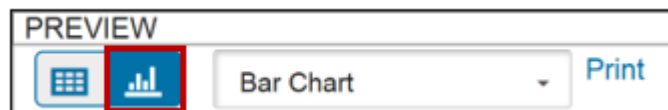
チャートプレビュー

次の条件を満たす場合、レポートをチャートとして表示できます。

1. 少なくとも2つのデータ列が取得されている。
2. 2番目の列以降のすべてのデータ列に数値が含まれている必要がある。

デフォルトでは、すべてのレポートがグリッドとして表示されます。

グリッドレポートをチャートレポートに変更するには、チャートアイコンをクリックします。



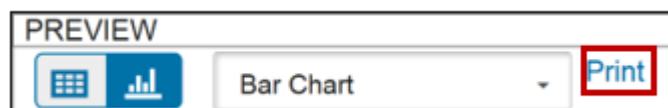
レポートの抽出

グリッドとチャートの両方を、ONESOURCE: Global Trade Report Builder システムから抽出できます。

Excel スプレッドシートファイルとしてグリッドレポート結果をエクスポートするには、[抽出] をクリックします。



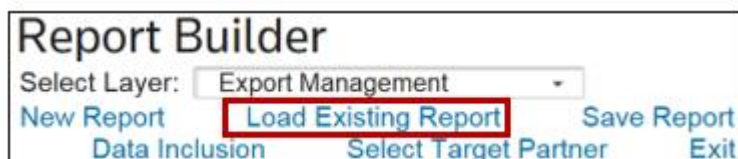
Adobe .pdf ファイルとしてチャートをエクスポートするには、[印刷] をクリックします。



レポートの保存と読み込み

レポートは、後からレビュー、変更、エクスポートを行えるように、Report Builder画面で保存できます。

保存したレポートを読み込む/編集するには、[既存のレポートを読み込む] をクリックします。



ポップアップが表示され、すべての使用可能なレポートが一覧表示されます。リストからレポートを選択し、右端の対応する[編集]リンクをクリックします。

Show/Hide Filter				
Date Added	Report Name	Product	Used in Lookup	Link
04/25/2019	Product Report	GLOBAL CLASSIFICATION	No	Edit
02/25/2019	Global Report	GLOBAL CLASSIFICATION	No	Edit
06/20/2018	US Controlled Item Global HS	GLOBAL CLASSIFICATION	No	Edit

⏪ ⏩ 1 ⏪ ⏩
10 3 items in 1 pages

選択したレポートがページ上に開きます。必要に応じてレポートの内容をレビュー/変更できます。

Product Report

Select Layer: Global Classification

[New Report](#)
[Load Existing Report](#)
[Save Report](#)
[Data Inclusion](#)
[Select Target Partner](#)
[Exit](#)

FIELDS

- + BR-ProductNum
- + Brazil-ECN
- + Brazil-HSNum
- + Brazil-ProductMat
- + China-HSNum
- + China-ProductDes
- + DE-CountryOfOrig
- + GB-ECN
- + GB-HSNum
- + GB-ProductDesc

SELECTED ITEMS

US-ProductNum
US-ProductDesc
US-HSNum

RESTRICTIONS

US-ProductNum Starts With

ORDERING

PREVIEW

US-ProductNum	US-ProductDesc	US-HSNum
	PRINTED MATTER	4911998000
	SET WATCH AND BRACELET	
	The Watch	9102114510

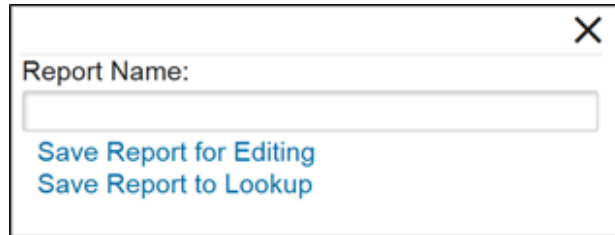
レポートの保存

Report Builder

Select Layer: Export Management

[New Report](#)
[Load Existing Report](#)
[Save Report](#)
[Data Inclusion](#)
[Select Target Partner](#)
[Exit](#)

[レポートを保存] をクリックすると、複数の保存オプションを含んだポップアップが開きます。これらのオプションは、レポートの状態に応じて異なります。



[Report Builder] にレポートを保存するには、レポート名を入力する必要があります。

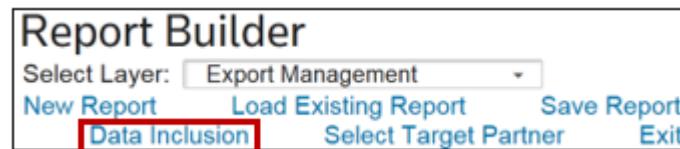
編集用にレポートを保存	このオプションは、レポートが新しく、保存されていない場合に表示されます。
ルックアップにレポートを保存	このオプションは、レポートが以前にルックアップに追加されていない場合に表示されます。クリックすると、ターゲットのルックアップカテゴリとセキュリティグループ アクセスの選択を要求する新しいポップアップが開きます。
レポートを更新	このオプションは、レポートを以前に保存したことがある場合に表示されます。
新規レポートにコピー	このオプションは、レポートを以前に保存したことがある場合に表示されます。クリックすると、新規レポートコンストラクターが、以前の既存のレポート値を読み込みます。画面上部のメッセージは、このコピーがまだ保存されておらず、保存する必要があることを示します。

データを含める

[データを含める] は、結果に含める必要のあるものと、結果に含めることのできるものを決定するために、レコードタイプの管理に使用されます。

必要	完全結合。これは、レポートに表示するレコードの順序ですべての基準を満たす必要があることを意味します。
できる	左結合。これは、基準が満たされているかどうかにかかわらず、レコードが表示されることを意味します。

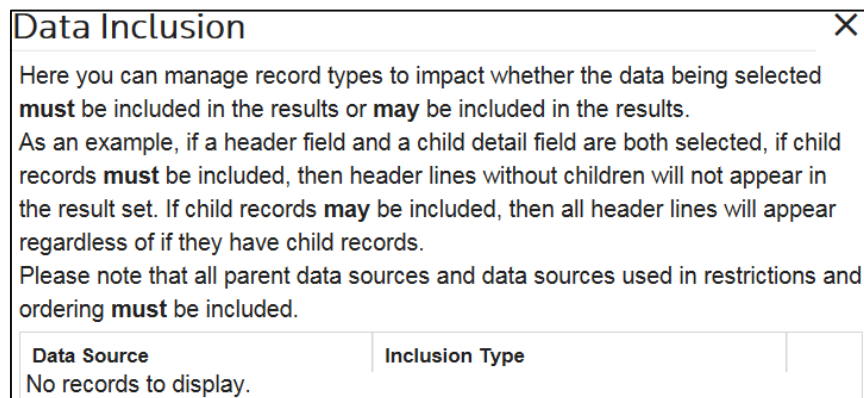
[データを含める] ポップアップを開くには、最初に既存のレポートを読み込むか、現在画面に表示されているレポートを保存します。レポートを選択するか保存したら、画面の上部にある [データを含める] をクリックします。



[データを含める] をクリックすると、[データを含める] ポップアップが開きます。

レポートを保存も選択もしていない場合、グリッドは空白になり、アクションを実行できません。

[X] をクリックして、ポップアップを閉じます。



レポートを選択した場合、ポップアップに次の 3 つの列が表示されます。これらの列については、以下で詳しく定義します。

カラム	説明
情報元	これは、選択したデータソース テーブルの名前であり、セマンティックレイヤーである表示名により名付けられます。
含めるのタイプ	含める必要あり: 選択したデータソースは完全結合であり、結果に含

カラム	説明
	める必要があります。テーブルはデフォルトで [含める必要あり] です。すべての親データソースと、制限および順序付けで使用されるデータソースは含める必要があります。例: 子レコードを含める必要がある場合、子レコードのないヘッダーラインは結果セットに表示されません。 含めることができる: 選択したデータソースは左結合であり、結果に含めることができます。例: 子レコードを含めることができる場合、結果セットに、すべてのヘッダーライン (そのラインに子レコードがあるかどうかにかかわらず) が表示されます。
切り替え	このボタンは、データソースの含めるのタイプを切り替えます。 例: [受領履歴の HTS 値] が [含める必要あり] と表示されている場合、[切り替え] をクリックすると [含めることができる] に変更し、逆も同様です。

Data Inclusion

Here you can manage record types to impact whether the data being selected **must** be included in the results or **may** be included in the results. As an example, if a header field and a child detail field are both selected, if child records **must** be included, then header lines without children will not appear in the result set. If child records **may** be included, then all header lines will appear regardless of if they have child records. Please note that all parent data sources and data sources used in restrictions and ordering **must** be included.

Data Source	Inclusion Type	
US	Must Include	Switch

付録 A: 関数表

NEW SAVED FUNCTION	すでに保存されている関数をテーブルに追加します。
LOAD SAVED FUNCTION	すでに保存されている関数をテーブルに読み込みます。
COUNT	ターゲット項目が発生する回数を数えます。
SUM	ターゲット項目のすべての値の合計を収集します。
AVG	ターゲット項目の平均値を収集します。
MIN	ターゲット項目の最小値を取得します。
MAX	ターゲット項目の最大値を取得します。
DAY	ターゲット日の日の数字を表示します。
MONTH	ターゲット日の月の数字を表示します。

NEW SAVED FUNCTION	すでに保存されている関数をテーブルに追加します。
YEAR	ターゲット日の年の数字を表示します。
MONTHYEAR	ターゲット日から文字列として月と年を取得します。
DATEPART	ターゲット日の指定した部分を取得します。
DATEDIFF	2つのターゲット日の指定した部分（日、月、年）における差を取得します。
DATEADD	指定した部分（日、月、年）を複数回増分でターゲット日に追加します。
SUBSTRING	[開始] インデックスで始まり、[長さ] 文字長であるターゲット項目の一部を取得します。
REPLACE	[項目] に現れる [上書き] 値すべてを [置換] 値の文字に置き換えます。
RIGHT	右端の [長さ] 文字から構成される項目の部分列を取得します。
LEFT	左端の [長さ] 文字から構成される項目の部分列を取得します。
PERCENT	項目値のパーセンテージを表示します。
CONCATENATE	複数の値を単一の列と一緒に表示します。
ADD	2つの異なる選択した数値項目の値の合計を表示します。
PIVOT	ピボットは、列から一意の値を取得し、それらの値を複数の列に変える方法であり、他の列値を集計します。

標準セマンティックレイヤー

以下に、レポート作成に利用できる標準セマンティックレイヤーのリストを示します。ユーザーは、これらのレイヤーを使用して、Report Builderでさまざまなレポートを作成できます。

レイヤー	説明
GC グローバル製品分類 17 か国サポート	複数の国にわたる（横並びの）製品分類情報（HS および ECN）を表示します。 サポートする国のリスト: AU、BE、BR、CA、CN、US、DE、FR、GB、HK、ID、JP、MY、NL、SE、SG、MX
GC <国> 製品分類 17 か国サポート	特定の国における製品を詳しく表示します（すべてのサポートされる項目）。 サポートする国のリスト: AU、BE、BR、CA、CN、US、DE、FR、GB、HK、ID、JP、MY、NL、SE、SG、MX
輸出	輸出文書、品目ライン、すべての輸出文書関連データ表示を提供します。

レイヤー	説明
IMMEX HDS 輸入ペディメント	(読み込み時に) 輸入に関連する履歴データ (輸入ペディメント、輸入インボイス、輸入品目、すべての関連情報) を提供します。このレイヤーは、IMMEX で利用できる HDS 機能を使ってレガシーソリューションから履歴データのストレージを取得した顧客にとって役立ちます。
IMMEX HDS 輸出ペディメント	(読み込み時に) 輸出に関連する履歴データ (輸出ペディメント、輸出インボイス、輸出品目、すべての関連情報) を提供します。このレイヤーは、IMMEX で利用できる HDS 機能を使ってレガシーソリューションから履歴データのストレージを取得した顧客にとって役立ちます。
IMMEX HDS 荷揚げ	(読み込み時に) 荷揚げに関連する履歴データ (製品注文で定義された数量の完成品が生産される間に消費された品目) を提供します。このレイヤーは、IMMEX で利用できる HDS 機能を使ってレガシーソリューションから履歴データのストレージを取得した顧客にとって役立ちます。
IMMEX HDS 調整	(読み込み時に) 調整に関連する履歴データを提供します。このレイヤーは、IMMEX で利用できる HDS 機能を使ってレガシーソリューションから履歴データのストレージを取得した顧客にとって役立ちます。
ペディメント要約	IMMEX の「ペディメント要約レポート」に記載されている情報と同じものを提供します。
輸入	輸入文書、品目ライン、すべての輸入文書関連データ表示を提供します。
DPS 対応企業	最新の DPS ステータスを含む、レポートするための完全な企業レコードデータを提供します。
DPS スクリーニング履歴	スクリーニングされたエンティティの詳細やスクリーニングステータス履歴など、スクリーニング履歴情報を提供します。
FTA 部品表	FTA 部品表とそのコンポーネントレポート機能を提供します。
FTZ の現在の出荷	FIFO によって処理されたがまだ生成されていない出荷に関連する情報を提供します。
FTZ 受領履歴	地域で処理されたすべての受領と積極的調整に関連した情報を提供します。